

災害に備える

熊本地震により地盤全体が沈下。河川堤防などの復旧は進んでいるが、氾濫する危険性は高い。命を守るために私たちができることとは――

【雨の季節に突入】

大雨や長雨による水害や土砂災害が起りやすい季節となりました。近年の異常気象により、集中豪雨や台風が全国各地で大規模な水害・土砂災害を引き起こし、多くの犠牲者が出ています。

被害を最小限に抑えるためには、日ごろの備えや避難行動の確認が大切です。改めて、水害・土砂災害に対する防災について考えましょう。

【早めの避難】

大雨は、ある程度事前に予測ができるので、天候が悪化する前に避難することが大切です。気象情報や河川の水位などの情報を収集し、避難に備えましょう。

しかし、突然の集中豪雨などにより、道路に水があふれ出す状況であれば、歩いて移動するのは危険です。特に夜間は視界が悪く、慣れた道でも、思わぬ状況になることがあります。実際にそのような状況で避難所に向かい、人的被害が発生したケースがあります。

状況に応じて、自宅の2階など高いところに避難することを考えましょう。

また、山沿いでは土砂災害による被害を避けるため、山と反対側の2階の部屋や玄関付近のスペースに滞在するなど、命を守る行動をしてください。



【災害に役立つ知識の習得】

どうしたら命を守る行動ができるでしょうか？ それは災害時に身を守る知識をできるだけ多く習得し、実践することです。日頃から、防災について家族で話し合うことで得た知識や、テレビ・インターネットなどの情報で得た知識が命を守ることにつながります。

また、高齢者などは、災害時に1人での速やかな避難が困難であり、自分だけで災害に備えるには限界があります。自治会など地域で相談し合い、情報共有をしておく、知識が増えるだけでなく、

災害時に協力しやすいコミュニティになります。

【避難場所の確認】

災害の危険性が高まったとき、早めの避難が自分の身を守ることにつながります。6月中旬に最新版のハザードマップを配布しますので、自宅および職場から一番近い避難所と、その避難所までの避難経路を再確認しましょう。

特に浸水想定区域や土石流警戒区域などが避難経路と重なっているときは、道路が通れないことも想定して、複数の避難経路を考えておくことと安心です。いざという時に速やかに行動をとれるよう準備をしておきましょう。



【非常時持ち出し品などの準備】

災害の状況によっては、数日間避難が必要になることがあります。また、停電により、明かりが確

保できなかったり、情報を得るためのテレビや携帯電話などが使用できないことも考えられます。

その際に必要になる「非常時持ち出し品」および「非常時用備蓄品」を日頃から準備・点検し、いざという時すぐに持ち出せるようにしておきましょう。

ここでは、「非常時持ち出し品」および「非常時用備蓄品」の一例を紹介しますが、さらに詳しい品目のチェックリストをハザードマップに掲載していますので、準備できているか確認しましょう。

非常時持ち出し品



非常時用備蓄品

